

議事録

令和7年度 第2回 富田林市立図書館協議会 議事録

主管課 生涯学習部 中央図書館

- 1 開催日時 令和8年2月5日（木） 午後1時30分～午後3時
- 2 開催場所 富田林市立中央公民館 2階ホール
- 3 出席者 【委員】松井 純子（委員長、大阪芸術大学）、
藤井 郁子（副委員長、富田林子ども文庫連絡会）
中島 芳昭（公民館運営審議会委員）、尾谷 成子（元図書館長）、
木下 みゆき（大阪大谷大学）、藏田 和子（人権擁護委員）、
岡田 奈未子（青少年指導員）、下野 恵子（富田林おはなしの会）、
佐伯 穂高（校長会 図書館担当）、石田 尚美（園長会 図書館担当）
【計10人出席】
【事務局】尾崎生涯学習部長、
山本中央図書館長、道旗金剛図書館長
野島中央図書館館長代理（司会）、木下金剛図書館館長代理（記録）
- 4 開催形態 公開（傍聴人0人）
- 5 次第
 - (1) 生涯学習部長挨拶
 - (2) 委員長挨拶
 - (3) 報告並びに議案
報告第1号 令和7年度図書館活動報告について
議案第1号 富田林市立図書館自動車文庫駐車場設置等に関する基準の一部改正
について
議案第2号 令和8年度自動車文庫「つつじ号」運行日程について
 - (4) その他
 - ・ 第1回協議会からの継続案件について
 - ・ 中央図書館50周年記念行事開催について

6 審議の経過および審議会等の結果等

要点筆記

傍聴希望者：なし

●報告第1号 令和7年度図書館活動報告について

【道旗金剛図書館長】

・利用状況について

令和6年度との比較では、貸出冊数－27,799冊、貸出人数－27,645人、予約冊数－8,492件。広域利用者は、貸出冊数－1,970冊、利用人数－485人（令和7年12月現在）。

4月から12月の貸出冊数は月毎の差はあるが、約3%から10%の減であった。貸出冊数が減少傾向の中で、自動車文庫の貸出冊数は、児童書が約25%（662冊）増えており、自動車文庫全体では10%弱（429冊）伸びている。

幼稚園・保育園つつじ号の巡回による貸出がこの結果につながっている。巡回回数の増加に加え、これまで一巡回当たりの貸出冊数が40冊前後だったところが、令和7年度は100冊近くを借りていただけるようになった。巡回が定着したことが実感される。

統計の詳細については改めて来年度に報告する。

・新たな取り組みについて

児童書充実プロジェクトで、クラウドファンディング型ふるさと寄付金の募集を行った。第3次富田林市子ども読書活動推進計画に基づき「常に子どものそばに本がある環境」の整備を進めていく。

クラウドファンディングの寄附金は、3つのカテゴリーで児童書の購入をする。

- ①小さい子どもたちへの読み聞かせに活用する、長く読み継がれている絵本。
- ②学校や学校図書館支援に活用する、主に調べもの学習などに使用する資料。
- ③海外にルーツをもつ子どもたちへ向けた日本語・英語以外の多言語に対応した資料。

・従来から図書館で開催している行事「お楽しみ袋の貸出」について

大人のお楽しみ袋（7年目）を10月の読書週間に、幼児から中学生向けの子どもの向きのお楽しみ袋（8年目）を12月のクリスマス前に実施した。

大人向きは2冊、子ども向きは3冊をワンセットにし、それぞれテーマに沿った図書を紙袋などで包装し、意外な図書との出会いを楽しんでいただいた。

お楽しみ袋を準備することは司書にとってもこれまでの選書や配架、また利用者対応などで培った経験を活かす機会となり、さらには司書同士お互いに意見交換をし、他の司書の選定も日常業務への刺激となっているように見受けられた。

・緑化フェア参加について

4月の緑化フェアに、自動車文庫つつじ号を会場に乗り入れる形で初めて参加した。令和6年度、7年度二年連続で金剛駅周辺まちなかウォーカブル社会実験「オープンストリート+」に参加した時と同様、普段図書館に来館されない方へのPRを目的としている。本を自由にご覧いただくほかに、子ども向きにイラストやシールでしおりをデコレーションするお楽しみも体験していただき、イベントの際にちょっと立ち寄れる気軽さに「こういう図書館の使い方を望んでいた。楽しいね。」と声を掛けてくださる方もあった。図書館を身近に感じていただけたのではないかな。

●質疑応答

【委員】

第1回協議会の時に予告したクラウドファンディングだが、これは今年度のみではなく継続して行う予定があるのか。

また、寄附金額を教えて欲しい。

【事務局】

クラウドファンディングは、今のところ令和7年度だけである。

寄附の結果について、100万円という目標値を設定して、レディーフォーというサイトを通じて、クラウドファンディングを行い、107万2000円で達成した。

これとは別に個人や法人・団体等から直接窓口で支援をいただいた寄附が125万7998円だった。

【議長】

直接の方が多かったのか。

【事務局】

はい。

合計で232万9998円となった。予想していたよりもかなり高額のご寄附をいただいた。

令和7年度は、レディーフォーを通じていただいた分の、手数料を抜いた約90万円を活用し、多言語の本などをすでに受け入れ始めている。

残りの約100万円については、富田林ふるさと基金に積み立てて、3年かけて少しずつ使う計画にしている。

【議長】

クラウドファンディングが好評で良かった。

【委員】

分散して使えるということもわかった。単年度で使い切るのではないところが良い。

●議案第1号 富田林市立図書館自動車文庫駐車場設置等に関する基準の一部改正について

【山本中央図書館長】

この度の基準改正の目的としては、富田林市立図書館における自動車文庫のステーション新設・廃止を柔軟に対応できるよう所要の改正をおこなうものである。

これまでの経緯は、令和5年第2回の本協議会（令和6年2月16日）において、自動車文庫の「東公民館ステーション」の廃止を議案として提出した際、会議の中で、今後新たな場所にステーションを設ける際に「富田林市立図書館自動車文庫駐車場設置等に関する基準」第3条第1項第3号の利用希望者が原則として50人以上であることというのは多すぎるとのご意見をいただいた。

そしてまた、当該基準が昭和53年の制定時から一度も改正がされていないことなどを踏まえ、この度、富田林市立図書館自動車文庫駐車場設置等に関する基準の一部の改正をおこなう。

主な改正点としては、「休止項目の追加」「利用希望者数の減」「廃止基準の明確化」となる。

新旧対照法（案）を見ていただきたい。

はじめに、指摘のあった第3条第1項第3号の「利用希望者が原則として50人以上であること。」を「町会、団体等からの申出があり、利用希望者が3人以上見込まれること」に改める。

また、第4条第1項では「協議会と協議のうえ、これを廃止するものとする。」を「協議会と協議のうえ、これを廃止又は、休止できるものとする」に改める。

そして、第4条第1項第1号では「地域の利用状況から、その利用効果に期待ができないと判断されるとき」を「1回の運行あたりの年間平均の利用者数が1人を下回るとき。」に改める。

なお、この基準は令和8年4月1日からの施行を予定している。

●質疑応答

【委員】

第2条の承認の「駐車場の設置、廃止等にあたっては」について、「駐車場の設置、廃止・休止等にあたっては」としたほうが、全体の整合性がつくと思う。

他のところは「設置、廃止・休止」となっているが、この部分だけ「休止」が抜けているため。

【事務局】

そのように改正する。

【委員】

もう1点質問する。

廃止する基準は、単年度で判断するのか、複数年度で平均して判断するのか。

資料3-1の自動車文庫ステーション別貸出統計にある、藤沢台1丁目の1巡回あたりの貸出数が令和6年度は2.2冊だが、令和7年度が0.9冊になっている。

この基準であれば、藤沢台7丁目は今年度で廃止となるが、どう判断をするのか。具体的な基準を作っておかないと混乱する。

【事務局】

単年度で判断するのか、複数年度で判断するのかについて、基本的には「1年基準を下回ったのですぐに廃止・休止」という判断はしない。

それも、今回、廃止のみの文言だったところに休止できるという文言をつけ加えた。

藤沢台7丁目については、なかなか新規の利用者が見込まれないため、町会等に回覧等させていただき、新規の利用者を募っていきたいと考えている。

次の議案になるが、すぐ廃止・休止はせず、この協議会で話をしながら判断をさせていただきたいと考えている。

【議長】

この質問に関連して確認する。先ほど館長が、今後の利用が見込まれるかどうかを勘案しながら、と発言された。つまり単年度で見ると利用が低下しているけれども、今後、利用の増が見込まれる時、1年ごとに廃止したり、また設置し直したりするのではなく、長い目で判断をしていこうという考えだと理解してよろしいか。

【事務局】

その通り。

【議長】

他に意見はないか。

この基準の一部改正について、異論なしのため承認する。

●議案第2号 令和8年度自動車文庫「つつじ号」運行日程について

【山本中央図書館長】

令和7年度自動車文庫つつじ号の運行状況及び令和8年度自動車文庫「つつじ号」の運行日程について説明する。

自動車文庫つつじ号は、図書館から遠い地域に住む市民が、身近な場所で図書の貸出や返却し、読書を楽しんでいただけるよう軽自動車に資料を積んで市内12か所を2週間に1回、巡回している。

今年度の運行状況等は、予定どおり巡回ができています。

資料3-1 「自動車文庫ステーション別貸出統計令和6・7年度比較表」は令和6年度と令和7年度の巡回数、貸出人数、貸出冊数及び1巡回あたりの貸出冊数の比較表となっている。容易に比較ができるよう、令和6年度、令和7年度、いずれも当該年度の1月未までの実績を掲載している。このため本市の図書館の統計「富田林市の図書館活動」の数字とは異なっている。

飛躍的に伸びているステーションが No.5梅の里5号公園である。今年度20回の巡回で、362名の方にご利用いただき、1,543冊の貸出をおこなった。1巡回あたり約18名の方にお越しいたいただき、77.2冊お借りいただいた。以前から利用は多かったが、今年度はさらに多くなっており、一回に持っていく予約で取り置きしている冊数も多くなっている。

その反面、利用が減少しているステーションがNo.2久野喜台2丁目150棟前、No.3 伏山（金剛グリーンハイツ前）、No.8不動が丘2号公園前である。

No.2久野喜台2丁目150棟前は、1巡回あたりの貸出冊数が前年度比9.1冊の減である。また、No.3伏山（金剛グリーンハイツ前）は8.5冊の減、No.8不動ヶ丘町2号公園前も4.9冊の減少となっている。

それぞれのステーションによって利用者減少の理由は異なると思うが、利用者が高齢になられたなど様々な理由で自動車文庫に来られなくなっているのではないかと推測している。

減少傾向にあるステーションの新規開拓もなかなか進んでおらず苦慮している。

本市図書館では、今後も自動車文庫の巡回では、各ステーションの利用者の要望を直近の巡回でお聞きし、リクエストやステーションの利用傾向やご意見をもとに積載資料の分析を行いながら、毎回資料の積み換えをおこなっていく。

また、少ない積載量でも喜んでいただけるよう、できるだけ新しい本を搭載し、季節物や、巷で話題の内容のものを積み込むなど、今後も工夫をしていく。

資料「令和8年度自動車文庫つつじ号の巡回日程（案）」について、来年度は今年度と曜日・巡回時間等は変更せず運行を予定している。

● 質疑応答

【委員】

幼稚園・保育園つつじ号が着実に貸出、利用が増えている。確実に利用が多いところへ立ち寄ることにより、成果を上げていると思う。

他の自治体の自動車文庫を見ると、広場や公園だけではなく、例えば大阪市などは高齢者施設へ立ち寄っている。

先ほどの説明でステーションの見直しについても話していたが、幼稚園保育園などのように、確実にそこへ行けばその利用者に利用していただけるような施設を、新ステーション候補として検討しているのかどうか聞きたい。

【事務局】

確かに利用者のいるところに巡回することは大事なので、今後ステーションの入れ替えのときは、そのことを考慮しながら考えていきたい。

過去に自動車文庫の巡回とは別で、高齢者施設に配本をしたことがあるが、残念ながら長く続かなかったという前例がある。

先ほども説明した通り、藤沢台7丁目の1回当たりの貸出冊数が0.9冊となっている。基準の改定を行い、このまま続けるのか、利用者の多いところを探してステーションを変えるのか、時間をかけてしっかり考えていく。

【委員】

自動車文庫を利用するのは高齢者が多いのか、子ども連れが多いのか。どのような様子か。

【事務局】

高齢者が多い。

資料に記載はないが、貸出人数を巡回数で割ると1回あたりの貸出人数がわかる。藤沢台7丁目は約0.17人。久野喜台2丁目170棟前は約2.7人、伏山(金剛グリーンハイツ前)は約7.9人。利用が一番多い梅の里5号公園で、1回約18人。ほぼ全て高齢者である。

【議長】

梅の里5号公園では皆さん誘い合ってくるのか。

【事務局】

近所の方と誘い合ってくる人もいると思うが、そればかりではないと思う。

【委員】

梅の里5号公園の巡回時間が3時10分から50分である。小学校低学年がちょうど学校から帰ってきて行ける時間帯だが、利用しているか。

【事務局】

子どもは時々遊んでいるが、なかなか自動車文庫には来てもらえない。

【委員】

先ほど、ウォーカーブルで出張図書館をしたらとても喜ばれたという報告があった。そのように自動車文庫も貸出だけではなく、子どもに読み聞かせなどのイベントをすると喜んでくれるのではないか。家にいるより自動車文庫に行けば読み聞かせしてもらえるので良いと口コミで広がるかもしれない。

自動車文庫には運転手と司書で行っているのか。

【事務局】

はい。

【委員】

公園で図書館の方が読み聞かせをしていて、親子連れの方が聞いているのを見た。このような工夫をすれば良いと思うが、どうか。

【事務局】

常時読み聞かせをするのは難しい部分もあるが、検討していきたい。

子どもがいるところにこちらから出向いて、利用のすそ野を広げていく方法も考えていきたい。

【委員】

巡回時間を見ると、子どもはまだ小学校の授業中だと思う。

随分昔、小学校に自動車文庫が来ていたとき、その時間になれば子どもたちが群がって本を借りていたということを思い出した。

学校に巡回しなくなった理由は、老朽化か、ブック便ができたからだっただろうか。

【事務局】

学校に行かなくなったのは、池田の学校の事件の影響で門を閉じることになったからである。あれから時間が経って、門の開閉については、相談すれば対応していただけるが、こちらからそのアプローチができていないという現状である。

【委員】

あの事件が理由で行かなくなった小学校もあるが、学校司書が配置されたのが理由でなくなった小学校もある。

その時に全小学校に行っていた分を地域に戻すということになった。

富田林市の学校は学校司書が尽力してくださっている。

【委員】

小学校の図書館の利用は多いのか。

【委員】

学校司書の先生が来る日の利用は多い。

休み時間や図書の時間に貸出したり、学校司書の先生の読み聞かせの後に本の貸出をしたり、頑張ってくれている。

【委員】

富田林市は図書館職員も全員司書であり、学校司書も2校に1人置いていただいて頑張っていたが、やっぱり子どもたちは、毎日司書が図書室にいるのが理想と思う。なるべく1校に1人学校司書がいる環境にして欲しい。

【議長】

先ほど館長は高齢化が利用が減っている主な原因と言っていた。高齢化は止めることが難しい。しかし、高齢になったから自動車文庫を利用できない状況を見過ごしていると、高齢者の方々の安否確認というのも難しくなってくる。

もちろん自動車文庫による安否確認を必須と考えているわけではなく、自動車文庫に来られなくなったと気づくところから、一人一人の高齢者の安否確認に繋がっていくところもゼロではないと思っている。

地域全体で高齢者を見守っていくという観点からしても、自動車文庫の存在はなくすることができないと思うので、今後も継続して自動車文庫運用をお願いしたい。

【委員】

自治会はつつじ号が来るのはわかっているのか。

【委員】

PRをもっとしないといけないというのは重々わかるが、今、高齢者と言っても働いている方がとても多い。そのため家におられない。昔は家におられる方も結構いらっし

やって、子どもと一緒に自動車文庫に来られることが多かった。

今、テレビのニュースや新聞等で、高齢でも働いていけないと言われてい
る。その影響でこの時間や、もう少し早い時間、1時ぐらいから行っても、家にいらっ
しゃらない。それが一番大きな理由じゃないかと思う。

ただ働くことは、今の高齢化の時代、健康なうちは社会に出ていただくのはありがた
いことだと思う。

幼稚園保育園つつじ号を私（元図書館長）たちが始めたころ、高齢者施設などにも出
かけていたら良いと思っていた。高齢者施設に巡回できれば、図書館に毎日通ってこ
られる高齢者の方が、自動車文庫で借りていただけることもあるだろう。

しかし自動車文庫は今たくさんステーションがあるため難しい。ステーションの希望
が多くなると巡回できない。ここをなんとかしないといけない。

子どもの数も減っており、家に帰る時間も遅いため、子どもの利用も減っていると当
時思っていた。

70代ぐらいでも働いているかたがいる。働いてもらわないと今後立ち行かない。

【委員】

ちょうど良いデータがあったので、紹介してよいか。

令和6年度高齢者白書の統計がある。これによれば、60～65歳は当たり前働いてい
る。70代も非常に就業率が高いとあり、非常に驚いた。

【委員】

私も在職中は自動車文庫に行っていたが、いくら職員が行っても、まず利用者が家に
おられないことが多い。自動車文庫は絶対なくしてはいけないとは思いますが、いろい
ろな形を考えていけないといけない時代だと思う。

幼稚園保育園つつじ号が成功してすごく利用が増えているので、高齢者施設にも行っ
て欲しいと思う。

ただこれだけの時間に巡回が入っているの、利用が0人のステーションが出てきた
ら検討できるのではないかな。

【委員】

この本によれば、現在、60歳～64歳の8割、65歳～69歳の6割、さらに70歳以上の半数
以上が働く時代となったと解説されていた。

【議長】

その本を紹介していただきたい。

【委員】

これは『ルポ過労シニア「高齢労働者」はなぜ激増したのか』という朝日新聞出版から出ている新書である。ジャーナリストが書いた本で非常に読みやすい。ここへ来る電車の中で読み始めたが面白い。しっかり統計が使われている。

【議長】

話が高齢者問題となったが、良い議論になったと思う。

令和8年度自動車文庫「つつじ号」運行日程については、これで良いか。では次の議案に移る。

●その他

①第1回協議会からの継続案件について・1点目「令和6年度 富田林市の図書館活動」（12ページ）13歳～15歳の利用者が極端に減少している要因について。

【山本中央図書館長】

過去の図書館活動を見ると、令和4年度までは大きな変動がなく推移している。

その後、令和4～5にかけて中学生が前年度比67%に減少しており、その分高校生が162%の上昇している。令和5～6にかけては中学生が33%に減少し、その分高校生が144%に上昇している。2年続けて中学生が減少し、高校生の利用が増えている。

令和5年から令和6年にかけて全体で33%となっているが、金剛図書館では年間のべ約1,000人の減少となり前年度比28%まで減少している。

これについて、人口ピラミッドと照らし合わせたり、新型コロナウイルスの影響と仮説を立て、数字をみたりしたのだが、原因究明には至らなかった。

●質疑応答

【議長】

なかなか原因を突き止めるのは難しいことなので、やむを得ないと思う。委員は何か意見等あるか。

なければ次へ。

●その他

①第1回協議会からの継続案件について・2点目「令和6年度 富田林市の図書館活動」（24ページ）9実績比率について、「同じ人口規模の他市との比較」ができないかとの意見について。

【山本中央図書館長】

前回協議会終了後に、同項目について他市との比較サンプル表を作成し、資料として

本日配布した。

①基礎数字が安定していないこと。

②実績比率が当市の前年度データであるのに対し、他市町村の前年度のデータの収集が第1回の協議会に間に合わないこと。

③年度が別のデータを同列に並べても比較検討に精密度がないこと。

以上を検討した。

松井委員長にも助言をいただきながら再度検討した結果、毎年度第1回の協議会に、2年前のデータで作成した別添の「資料1 府内市町村比較表」を示したいと考えている。次の令和8年度7月の第1回の協議会では、ここに令和6年度のデータを反映させたものを示したい。この資料の基データは、配布した資料の次ページの大阪公共図書館協会が発行する会報「大阪府内公共図書館奉仕状況（1）（2）」のデータとする。

このデータを基に9. 実績比率のなかで、

1. 市民一人当たりの貸出冊数
2. 登録率
4. 蔵書回転率
5. 市民一人当たりの蔵書冊数
8. 市民一人当たりの資料費
9. 市民一人当たりの図書館費

の6項目を別紙と同じような形で示したいと考えている。

今回配布したのが、サンプル「1. 市民一人当たりの貸出冊数」と「8. 市民一人当たりの資料費」となる。これは検算ができておらず、あくまでもサンプルとして取り扱っていただきたい。

●質疑応答

【委員】

市民一人当たりの資料費について、大阪市が余りに低く驚いた。最下位から2番目である。

【議長】

人口規模が違う。母数が大きい。

【委員】

これは人口規模が違う。町村と大きな市ではなかなか比較できないと思う。単なる数字だけでは判断できない。

【委員】

私が第1回で聞いたと思うが、多くの資料から大変な作業をしていただいた。こうして出すとわかりやすくなった。

【議長】

このような数値データというのは、どのように解釈するかによって、プラス評価に繋がるものもあれば、マイナスの評価になってしまうものもある。

例えば1人当たりの資料費が高いからといって、必ずしも図書館サービスが充実しているとは言えない。読み方・受けとめ方には注意が必要だと思う。

ただこの表を見ると、実際に良い図書館サービスができている自治体がある。サービスが充実している他自治体の図書館サービスを、どういうふうに富田林市が吸収していけるか、或いは試していけるかというところを検討する材料になると思う。

【副委員長】

この中で市民1人当たりの資料費の1番が泉大津市である。泉大津市は今図書館に力を入れているため、資料費が非常に高いのではないかと思う。今の図書館長は熊本からお呼びした方で、いろんなてこ入れをされている。

学校図書館についても、校長先生全員を呼び、学校図書館の方針を話し合っている。学校図書館は、校長先生が学校図書館長であるので、すべての小中学校の校長先生にその自覚を持っていただけると嬉しい。

公共図書館も直営だからこそいろいろなことができると、その図書館長が言っておられた。富田林市も直営なので、まだまだ可能性があると思っている。ぜひ頑張っていたきたい。

【議長】

館長の説明では「同じ人口規模の他市との比較」を第1回目の図書館協議会で示すが、データが少し古いがこのような形になるということである。また示す数値を6項目あげていたが、この点で特に議論はないか。例えば他の数値の目安もあれば良いという提案はないか。

ないようなので次回の図書館協議会からこの形の資料を提示していただくことにする。

②中央図書館50周年記念行事開催について

山本中央図書館長

令和8年6月、中央図書館が開館50年を迎えることから、予定している周年事業について説明する。

「ともに歩んだ50年、つなぐ未来の図書館」をテーマに、中央図書館の50年の歩みを

振り返り、今後も「市民の暮らしに図書館を」を合言葉に、市民により身近な図書館であるとともに、今後も図書館が成長していくことを目的に、年間を通じて記念行事の開催を考えている。

催しについては、一般向けに①「おすすめ本のツリー」②「音楽付き朗読会」③「著名人を招いての講演会」など7本、子ども向けに①「クイズラリー・謎解きイベント」②「ぬいぐるみのお泊り会」③「児童おたのしみ袋」④「英語絵本の読みきかせ」⑤「折り紙工作」の5本、あわせて12本の多彩な記念行事の開催を予定している。

この度の50周年事業において、開館以来お世話になっている「富田林子ども文庫連絡会」の皆さまをはじめ、多くの皆さま方に支えられて、歩んできた半世紀を振り返り、今後も市民の皆さまの身近な図書館であり、市民の皆さまと一緒に成長していける図書館でありたいと願っている。

よって市立図書館設立よりお世話になっている「富田林子ども文庫連絡会」、「富田林おはなしの会」また「朗読ボランティアグループ くさぶえ」の方々にも各行事の講師などを通じて周年イベントにご参加いただき、市民参加型で「みんなで50年を祝う」形で計画したいと考えている。

皆さま方と一丸となって周年行事に取り組み、50周年行事を盛り上げていきたい。ご協力の程よろしく申し上げます。

●質疑応答

【委員】

くさぶえに関わっているが、今初めて聞いた。実施されるのは5月か。

【事務局】

いいえ、令和8年度の1年間かけて、いろいろな行事をはやっていきたいと考えている。

【委員】

前にも話したかもしれないが、富田林市に引っ越してきて、図書館がないことに驚き、図書館を作る運動をされた方が、今年に亡くなられた。この方は吉村市長に図書館を作った時の話をされたこともある。この方が生きておられたら、とても喜んだだろうと思う。

1年間かけてということであれば、一緒に協力できることはさせていただきたい。

【議長】

50年、半世紀にわたって地道に図書館活動を積み重ねてきたのはすごいことだと思う。ますます発展していったほしい。

【委員】

50周年記念行事の話聞いて、50年間地道にしてきたということはすごく大事なことだと思った。

行事の開催について、パンフレットやチラシはあるか。

【事務局】

行事を五つ挙げたが、今の段階ではまだ案のため、確定次第それぞれのパンフレットを作って配る。保育園幼稚園にも配布するため、よろしくお願いします。

【委員】

いつも富田林市の広報を見ると図書館のページが小さいと思う。50周年行事なので1ページもらうなどできないか。大々的に広報で宣伝してもらったらいかがか。

【事務局】

広報誌の紙面は各課で取り合いになっており、多くの紙面をもらうのは難しい。この50周年記念行事は1年間を通じて開催しようと思っているので、来年度の早い段階、5月か6月に大きな紙面で記事を出したいと考えている。

【委員】

広報には、図書館で行っている関連本の展示については載っているのか。

【事務局】

関連本の展示はホームページにしか載せておらず、広報誌には載せていない。

【委員】

それはもったいない。広報に載っていれば、皆さん興味を持って、借りに来られると思う。図書館にはこんな本があるのかと思ってもらえる。

【議長】

広報の記事の載せ方というのも工夫の余地があるかもしれないので、検討いただきたい。

他に質問、意見はないか。

この50周年記念行事について、どういう内容になるか楽しみにしている。

それでは本日の議案については以上となる。

7 会議資料

・事前配布資料

①会議次第

②資料1「令和7年度図書館活動報告」

③資料2「富田林立図書館自動車文庫駐車場設置等に関する基準（案）」・「富田林市立図書館自動車文庫駐車場設置等に関する基準新旧対照表（案）」

④資料3「令8年度自動車文庫「つつじ号」巡回日程表（案）前期・後期」

・当日配布資料

⑤会議次第 差し替え分

⑥資料2 差し替え分「富田林立図書館自動車文庫駐車場設置等に関する基準（案）」・「富田林市立図書館自動車文庫駐車場設置等に関する基準新旧対照表（案）」

⑦資料3-1 「自動車文庫ステーション別貸出統計 令和6・7年度比較表」

⑧えほんいろいろ No.170

⑨YA通信 第79号

⑩行事チラシ「やってみよう図書館の仕事in春休み」・「はるやすみ！ちゅうおうとしょかんおたのしみ会」・「はるやすみ！こんごうとしょかんおたのしみ会」

以上